

# 水産基盤整備事業の概要

【漁港漁場整備課】

## 1 水産基盤整備事業の目的

水産資源の持続的利用と国民のニーズに的確に対応した水産物の安定供給及び水産資源の生息環境の保全・創造に資するため、漁港及び漁場の計画的な整備による水産物の生産及び流通の基盤づくりを総合的に行います。

## 2 事業の体系

水産基盤整備の事業体系は、次のとおりです。（網掛け部：再評価対象事業）

区分	事業名	事業内容
水産物供給基盤整備	水産流通基盤整備事業	水産物の流通機能の強化を図るために行う第3種、第4種漁港等の整備と当該漁港を本拠地とする漁船が利用する共同漁業権の区域内等における漁場の整備を行う
	水産物供給基盤機能保全事業	効率的で効果的な漁港・漁場施設の更新を図るため、当該施設の老朽化状況を調べる機能診断及び診断結果に基づく機能保全計画の策定並びに当該計画に基づく保全工事を行う
	漁港施設機能強化事業	高潮や波高の増大等に対して十分に安全が確保されていない漁港施設の必要最低限の機能強化、防護対策を行う
	漁港関連道整備事業	漁港と主要道路を結ぶアクセス道路の整備
水産資源環境整備	水産環境整備事業	水産生物の生活史に対応した良好な生息環境空間の創出及び水域の環境保全対策のために漁場の整備等を行う
	水産生産基盤整備事業	水産資源の増大及び水産物の生産機能の強化を図るために行う共同漁業権の区域内等における漁場と密接に関連する第1種漁港等の一体的な整備を行う

## 3 整備状況

県内における整備状況は、次のとおりです。（網掛け部：再評価対象事業）

事業名	整備地区数（整備漁港・漁場数）	進捗率
水産流通基盤整備事業	6地区（6漁港・6漁場）	71.6%
水産物供給基盤機能保全事業	5地区（44漁港）	47.6%
漁港施設機能強化事業	2地区（2漁港）	54.5%
漁港関連道整備事業	—	—
水産環境整備事業	6地区（7漁場）	37.2%
水産生産基盤整備事業	10地区（17漁港・12漁場）	88.9%

※進捗率は、計画事業費に対する実施済み額（平成23年度までの見込み）の割合。

#### 4 漁港の種類

漁港の種類は、漁船の利用範囲によって次のとおり分類されています。

種別	利用範囲	青森県の漁港	
		漁港数	主な漁港名
第1種漁港	その利用範囲が地元の漁業を主とするもの	74港 (うち市町村管理 41港)	十三漁港、今別漁港、一本木漁港、牛滝漁港、福浦漁港、磯谷漁港、奥戸漁港、材木漁港など
第2種漁港	その利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しないもの	11港	岩崎漁港、北金ヶ沢漁港、脇野沢漁港 など
第3種漁港	その利用範囲が全国的なもの	3港	鱒ヶ沢漁港、大畑漁港、三沢漁港
特定第3種漁港	第3種漁港のうち水産業の振興上特に重要な漁港で、政令で定めるもの	1港	八戸漁港 (全国で13港)
第4種漁港	離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの	3港	小泊漁港、佐井漁港、白糠漁港
		計 92港 (県管理 51港、市町村管理 41港)	

#### 5 漁港施設の分類（主な漁港施設）

分類	施設名
外郭施設	防波堤、防砂堤、防潮堤、導流堤、護岸、堤防、突堤 など
水域施設	航路及び泊地
係留施設	岸壁、物揚場、棧橋、浮棧橋、船揚場 など
輸送施設	道路、駐車場、橋 など
漁港施設用地	各種漁港施設の敷地
漁港浄化施設	公害防止のための導水施設など（清浄海水取水施設など）

#### 6 漁場の分類

分類	内容	主な漁場名
魚礁漁場	主として魚類の蛸集（いしゅう）、発生及び生育が効率的に行われ生産性が高い魚礁漁場を造成するために行う耐久性構造物（コンクリートブロック等）の設置により整備される漁場	佐井、奥戸、大間、小泊、下前、三沢漁場
増殖場	海域及びこれに接続する陸地において有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために行う投石、コンクリートブロック等の設置、干潟の造成等により整備される漁場	今別西部、今別、浜名、脇野沢、九艘泊、福浦、奥戸増殖場
養殖場	海域及びこれに接続する陸地のうち、未利用の状態にある養殖適地に生産性の高い養殖漁場を造成するために行う消波堤、潜堤等の設置等により整備される漁場	—